

岩手県立大学における「教員養成の理念」について

本学における教員養成は、「建学の理念」である「自然」「科学」「人間」が調和した新たな時代を創造することを願い、人間性豊かな社会の形成に寄与する、深い知性と豊かな感性を備え、高度な専門性を身につけた自律的な人間を育成する」ことを前提として行われています。この理念の下で、多角的な視点で教育現実を考察する教育的思考を持ち、実践性の基礎となる教育の技術を備えた教員の養成を行うことを目的としています。

以下に示す各学部・各研究科の「教員養成の理念」及び「養成したい人間像」は、この教育目的を、それぞれの学部・研究科において養成している教員の違いにおいて具体化したものです。

I 学部

1 看護学部

免許状の種類：高一種免（保健）、養教一種免

(1) 教員養成の理念

看護学部においては、看護の実践を基本とした高度の専門的知識・技術、幅広い教養とともに、看護の援助を必要としている人びとの立場に立ち、科学的に判断し、主体的な看護を展開する能力を養うことを重視した教育を行っています。高一種免（保健）については、看護学部における「基盤教育科目」「専門科目」と、教育職員養成課程における学びを統合して、高等学校における『保健』を担当できる教員の養成を目指しています。養護教諭一種免については、看護学部の教育理念に基づいて、学校健康教育を通じて子どもたちの人格形成に寄与できる専門的素養と基礎能力を備えた養護教諭を養成します。

(2) 養成したい人間像

前述の理念を礎として、次のような教員を養成します。

- ア 豊かな感性、深い人間理解や倫理観をもつ教員
- イ 看護学の理論を基にした教育・援助ができる教員
- ウ 社会の変化に対応できる能力を持ち、積極的に教育活動に貢献ができる教員

(3) 理念を実現するための教員養成の構想

看護学の素養の上に、基礎教育科目、養護教諭に必要とされる専門科目、教職に関する科目を4年間で学習します。教職科目では、「養護実習」「教育実習Ⅰ・Ⅱ」（4年次）があり、それぞれの専門領域における実践能力の向上をめざします。

「養護実習」および「教育実習Ⅰ・Ⅱ」は、看護臨地実習（１・２年次に基礎看護学実習、３・４年次６領域の看護学実習及び看護学総合実習）を経て、臨地実習と事前事後指導を４年次に行います。養護教諭一種免許取得には「養護実習」が、高一種免（保健）取得には「教育実習Ⅰ・Ⅱ」が必修となります。「養護実習」および「教育実習Ⅰ・Ⅱ」においては、大学での学びと臨地実践の往還を通して、総合的な実践的指導力をもつ教諭養成を目指します。

2 ソフトウェア情報学部

免許状の種類：中一種免・高一種免（数学）

(1) 教員養成の理念

ソフトウェア情報学部の目指す人材像として掲げている「人と数理・情報技術が調和した豊かな社会」の発展・高度化に寄与する人材育成の一環として、数学的思考力を持ち、自身の専門性と独創性を活かし、自然科学・社会科学の根幹をなす数学の指導力を教育環境の変化に対応して発揮できる、高い志と学識を持つ教員を養成します。

(2) 養成したい人間像

前述の理念を礎として、次のような教員を養成します。

- ア 解析学、代数学、幾何学、「確率論、統計学」、コンピュータに関する知識を修得し、基礎から応用まで体系的に数学教育を行うことができる教員
- イ 数理・情報技術の分野に興味を持ち、人間や社会に及ぼす影響や効果を数学的な観点から理解でき、社会における数学の重要性や必要性を説くことのできる教員
- ウ 自然・人間・社会の諸課題を、数学を用いて解決する方法を ICT の活用によって分り易く教えることができる教員
- エ 様々な学びや体験の中から、自分の能力・適性を把握し、自主的・計画的・継続的に自身の能力を高め、意欲的に数学教育を行える教員
- オ 論理的な文章を書き、自らの見解を分り易く伝達し、他者の意見を踏まえて議論することができ、生徒どうしの協働的な学びを育むことができる教員
- カ 知的探求心と想像力を持ち、絶えず発展し続ける数学や情報の理論・技術へ柔軟に対応した専門性を自ら高めていくことができる教員

(3) 理念を実現するための教員養成の構想

教員養成の理念や養成したい教員像を実現するための教員養成の計画は、以下のよう
に数学と情報の専門領域の相互関係を強く意識したカリキュラムによって教
員養成を行うものです。

1～2年次には、学科の専門基礎科目、専門共通科目により、代数学、幾何学、
解析学、「確率論、統計学」、コンピュータに関する基礎に加えて、全学共通の基
盤教育科目群の中から幅広い専門分野の先端の知識・理論を学修し、データリテラ
シーや情報機器活用技術を修得します。

2～3年次には、学科の関連科目、展開科目、キャリア学習科目を通して、代数
学、幾何学、解析学、「確率論、統計学」、コンピュータのより発展的で高度な内
容（数理・データサイエンス・A I 関連科目を含む）を学修するとともに、数理・
情報技術と自然・社会・人間とのかかわりを理解し、自身の適性や能力を踏まえ、
数学を指導する役割を担うための基礎を養います。

3～4年次には、自らが計画的学修・研究を継続し、自身の知識と教育力を磨く。
このように、専門教育と人間教育を一体化した教育・研究を実施し、教員養成の理
念を実現します。

なお、これらのカリキュラムは、入学時からの一人一台端末（BYOD）をネッ
トワーク環境（遠隔学習機能、教育データベース機能含）、I C T教室（電子黒板、
画面共有機能含）のもとで実践され、I C T活用指導力の向上を図ります。

また、教員養成の過程では、学部必修科目「プロジェクト演習Ⅰ、プロジェクト
演習Ⅱ」などのプロジェクト型学習科目に参加する高大連携協定校の高校生徒の3
年間の協働作業（同時双方向型のオンライン授業も含む）や、中高生を対象とした
本学部主催の体験学習講座「サマーセミナー、ウィンターセッション」（テーマは
プログラミングも含むSTEM教育）の中で、中高生への助言指導を経験する機会を設
けています。このように、中高生の協働的な学び合いや探求活動の指導を経験させ
ながら教員養成を行っています。

免許状の種類：高一種免（情報）

(1) 教員養成の理念

社会構造の変化に伴い、多様化・複雑化する様々な問題の効果的な解決策となり
得る情報技術・システムが求められていることを踏まえ、実学・実践の教育・研究
を通して「人に優しい情報化社会」の実現に寄与できる人材の育成を理念としてい
ます。

この理念のもと、自身の専門性と独創性を活かし、情報技術・システムに関する
指導力を発揮できる、高い志と学識を持つ教員を養成します。

(2) 養成したい人間像

前述の理念を礎として、次のような教員を養成します。

- ア 情報技術の分野に興味を持ち、人間や社会に及ぼす影響や効果を理解でき、教育者としての責任を感じることができる教員
- イ 情報技術・システムへの要求を考え、問題を解決する方法を提案することができさらに、情報技術の新しい活用方法を創造できる能力を有し、情報教育に携わる教員
- ウ 情報技術・システムに関する幅広い知識とスキルを修得し、それを活用した解決方法や仕組みに関する実践的指導力を発揮できる教員
- エ 自分の能力・適性を把握し、自主的・計画的・継続的に学習・研究を進めることができ、学習者の興味や関心を促すことができる教員

(3) 理念を実現するための教員養成の構想

1～2年次には、ソフトウェア情報学に関する専門基礎科目、専門共通科目により、幅広い専門分野の先端の知識・技術を網羅的に把握して、情報技術・システムの知識とスキルを高めます。

2～3年次には、関連科目、展開科目、キャリア学習科目を通して、情報技術・システムと人間や社会との係わりを理解し、自身の適性や能力を踏まえ、指導的な役割を担うための基礎を養います。

3～4年次には、研究科目により、自らが計画的に学習・研究を継続し、自身の知識とスキルを磨きます。このように、専門教育と人間教育を一体化した教育・研究を実施し、教員養成の理念を実現します。

Ⅱ 研究科

1 看護学研究科

免許状の種類：養教専免

(1) 教員養成の理念

看護学研究科（博士前期課程）においては、高度な専門知識、技術並びに倫理観を培い、様々な看護の実践と研究を通して看護学の発展と看護職の向上を強く志向する「優れた看護実践者」「優れた看護管理者」「優れた看護教育者」「研究能力を有する人材」を養成します。

(2) 養成したい人間像

前述の理念を踏まえて、次のような人材を育成します。

- ア 養護教諭としての諸活動を、科学的根拠に基づいて改善できる能力を持つ教員
- イ 高度な倫理観と科学的手法に基づいた実践と研究ができる教員
- ウ 教育に関する諸活動の発展に寄与することができる教員

(3) 理念を実現するための教員養成の構想

指定された授業科目のうちから 24 単位以上を履修することが必要です。

人材育成理念に共通する基本的能力としての実践の改善充実を目指した研究的アプローチ能力を高め、多様化・深刻化する児童生徒の健康問題に対応できるよう、養護教諭の専門性について追求しながら、具体的な課題解決に向けた対人援助能力を養います。

さらに各専攻分野の専門科目と研究指導科目を通して、理論と実践上の課題を関連づけ科学的に探求し解決できる能力を修得することで、学校における学校保健を推進できる専門的指導力の向上を図ります。

3 ソフトウェア情報学研究科

免許状の種類：高専免（情報）

(1) 教員養成の理念

社会構造の変化に伴い、多様化・複雑化する様々な問題の効果的な解決策となり得る情報技術・システムが求められていることを踏まえ、実学・実践の教育・研究を通して「人に優しい情報化社会」の実現に寄与できる人材の育成を理念としています。

この理念のもと、自身の専門性と独創性を活かし、情報技術・システムに関する指導力を発揮できる、高い志と学識を持つ教員を養成します。

(2) 養成したい人間像

前述の理念を礎として、次のような教員を養成します。

- ア 情報技術分野に対する情熱を持ち、人間や社会に及ぼす様々な影響や効果を判断し、教育者としての責任を感じることができる教員
- イ 自身の適性や能力を的確に把握し、意欲的かつ計画的に学習・研究を継続し、新しい情報技術・システムを用いて学習者の興味や関心を促すことができる教員
- ウ 情報技術・システムの幅広い知識とスキル、及び自身の専門分野における学識を活用し、様々な問題・課題に適した解決方法や仕組みに関する実践的指導力を発揮できる教員

(3) 理念を実現するための教員養成の構想

まず、ソフトウェア情報学の領域における展開的な内容の科目により、幅広い専門分野の先端の知識・技術を網羅的に把握して、情報技術・システムの知識とスキルを高めます。

次に実践的な科目を通して、情報技術・システムと人間や社会との係わりを理解し、自身の適性や能力を踏まえ、指導的な役割を担うための基礎を養います。

そして、研究指導科目により、自らが計画的に学習・研究を継続し、自身の知識とスキルを磨きます。

このように、専門教育と人間教育を一体化した教育・研究を実施し、教員養成の理念を実現します。